

Robotics Report

新たな常識のはじまり

2019年のロボティクス産業の見通し

nikko am
fund academy



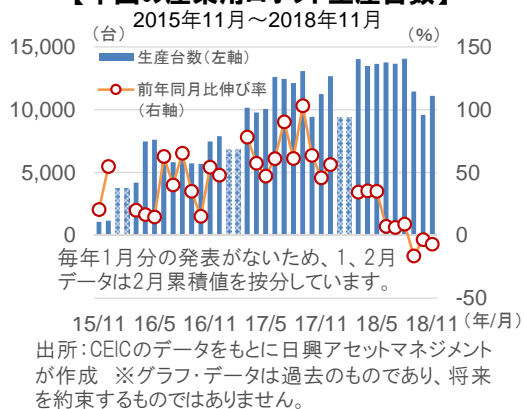
2018年のロボティクス産業は、米中貿易摩擦などの影響で世界経済に不透明感が漂う中でも、成長の勢いを維持しました。2019年も、グローバル市場における自動化への需要はさらに高まるとみられ、同産業の堅実な成長が期待されます。

■ 産業用ロボットへの需要は堅調

19年1月、日本ロボット工業会は、18年の日本メーカーの産業用ロボット年間受注額が初めて1兆円を突破し、19年に同受注額は前年比4%増の1兆500億円になる見通しを発表しました。国際ロボット連盟(IFR)も、18年10月に産業用ロボットの世界販売台数が、21年まで年平均約14%で成長する見通しを発表しました。どちらの発表も、米中貿易摩擦などに懸念はあるものの、自動化への根強い需要が背景にあるとしています。

一方、世界の一大ロボット市場である中国で、中国メーカーの産業用ロボットの生産鈍化が懸念されています。18年の生産台数の前年同月比伸び率は、米中貿易摩擦の影響などで製造業の設備投資意欲が消極的になったことなどから低下傾向となり、9月以降は前年割れとなりました。一部の現地メディアによると、中国市場における海外メーカーのシェア拡大や、中国メーカーの経営力や技術力の停滞などが背景にあると分析しているようです。ただし、中国政府は国策として“製造強国”になることを最終目標としており、中国メーカーは海外メーカーを徐々にキャッチアップしていくとみられます。

【中国の産業用ロボット生産台数】



■ 協働・サービスロボットへの成長期待は今年も続く

産業用ロボットの中でも、協働ロボットは、19年も堅実な成長が予想されています。英調査会社のInteract Analysisは、18年の世界の協働ロボット市場を前年比60%増の6億米ドル(約660億円*)と見込んでおり、19~20年の2年間も60%成長を維持すると予測しています。また、27年には世界の産業用ロボット市場の29%を占め、市場規模は75億米ドル(約8,250億円*)まで拡大すると予測しています。 *1米ドル=110円

また、世界のサービスロボット(業務・サービスロボット、ソフトウェアロボット、ロボット関連サービス)市場について、調査会社の富士経済は、家庭用や物流・搬送用などが拡大をけん引し、17年の1兆8,092億円から25年には約8.3倍の14兆9,553億円に達すると予測しています。拡大する背景には、人手不足解消や作業員の負担軽減などを目的に導入が進んでいることを挙げています。

なお、現状のサービスロボットは、実用化や商用化が進んでいる分野と、規制の問題などで停滞している分野が混在していますが、今後、AIスピーカーやロボット掃除機などのキラーコンテンツ以外にも、安定成長が見込まれるカテゴリーの登場が期待されます。



※写真はイメージです

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。